

資料館だより



白河内古墳石室の壁画



第 5 号

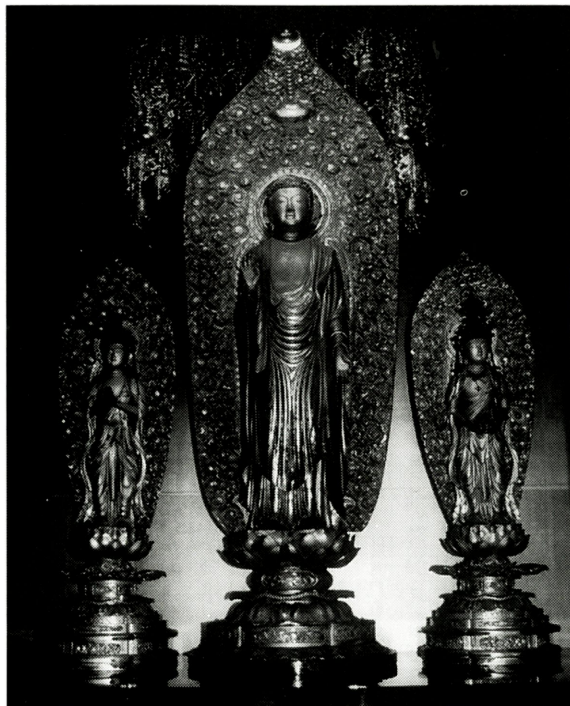
平成12年7月1日発行
那珂町歴史民俗資料館
(那珂総合公園内)

戸崎428-2 ☎ 297-0 0 8 0
FAX 297-0 0 7 5

県指定

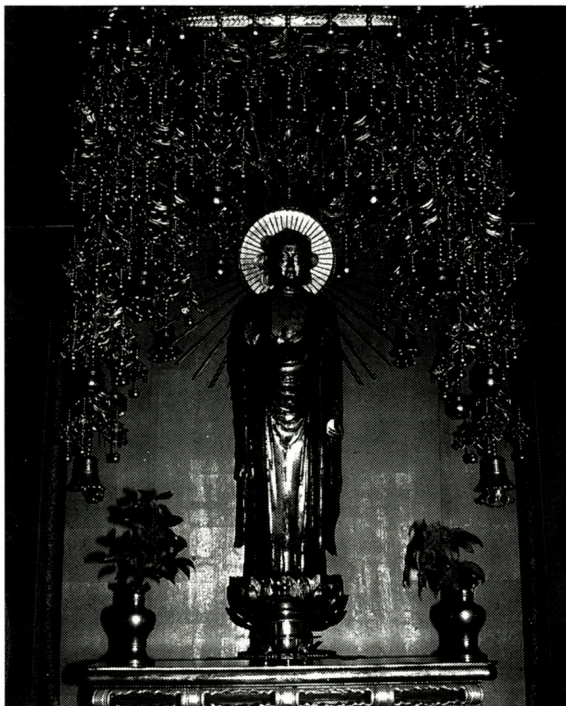
木造阿弥陀如来立像

及両脇侍立像(引接寺)



県指定

木造阿弥陀如来立像(阿弥陀寺)



那珂町の文化財(3)

① 木造阿弥陀如来立像(額田南郷・阿弥陀寺)

額田は昔から額田城があり、田彦街道と水戸上市からの街道の交わる交通の要地でもあり多くの寺院がある。額田十文字手前の坂を右へ入ったところにある阿弥陀寺は、浄土真宗大谷派の寺院で、大山(桂村)に親鸞が庵を結び、親鸞の直弟二四輩中十四番の定信坊がこれを継承し、一三九一年(明德二)額田城主小野崎従通の懇願により額田城内に寺基を移し、額田城の守護寺になったという。

木造阿弥陀如来立像は、鎌倉中期の作で当寺の本尊仏である。阿弥陀如来は西方の極楽浄土にあり、衆生(生きとし生けるもの)を救済するため四八願をかけ、後に成就して阿弥陀仏になったといわれる浄土信仰に由来する。この本尊仏は松の寄木造り・玉眼入りで慈顔の面相である。像の高さは九五・四センチメートル、仏像は漆で塗り、その上に金箔をつける漆箔がほどこされている。そして頭光が放射状の光背を配し、荘厳さを高めている。この本尊仏を正面に配置し、両脇には聖徳太子と法然を据えた画像がまつられている。聖徳太子は観音菩薩、法然は勢至菩薩を表しているという。昭和四十六年に県指定(有形文化財・彫刻)をうけている。

② 木造阿弥陀如来立像及両脇侍立像(額田南郷・引接寺)

引接寺は額田十文字の手前を左側に入ったところにある浄土宗の寺院である。一六九六年(元禄九)常福寺第三世益誉上人を開基として光圀の命により開かれた。木造阿弥陀如来立像及両脇侍立像は、当寺の本尊仏で、中央に来迎印を結ぶ阿弥陀如来(九一・五センチメートル)、向かって左側に勢至菩薩(五四・三センチメートル)、右側に観音(観世音)菩薩(五三・七センチメートル)を配し、それぞれ蓮華座上に立つ「来迎の三尊」像である。左右の脇侍は阿弥陀如来の側において衆生教化を助けている。この本尊仏は阿良川村(高萩市)の八幡宮にあったものを光圀公が、向山浄鑑院常福寺の末流にある引接寺に元禄九年に寄進したという刻銘がある。本尊仏は室町時代中期のものと推定され、松の寄木造りで金色を呈し、面相の表現や衣文の線も整っている。左右の菩薩は江戸時代元禄年間の作と推定されている。

阿弥陀如来立像は昭和四十六年、両脇侍立像は平成六年に県指定(有形文化財・彫刻)になっている。また、引接寺のイチヨウは、町指定の天然記念物になっている。

館内展示品解説 (三)

今回は歴史民俗資料館に展示されている一〇点の古文書の中から、四点について紹介したいと思います。

近世

①

常陸那珂郡飯田村新田検地帳
(那珂通裕氏所蔵)

地形図(二万五千分の一)をみると、旧芳野村には、国道一一八号線に沿って上新田・中新田・下新田や鴻巣地区には新田等の小字地名がみられる。新田は江戸時代になって新しく開墾された地域である。この検地帳は一六六三年(寛文三)一〇月二三日付けの文書になっている。子新田の「子(ね)」は十二支の一つで新田開発の始まった年の干支をとった水戸藩の新田の呼び名である。それと同じように「卯新田」、「辰新田」もある。



②

戸村百姓起立発端
(松山栄氏所蔵)

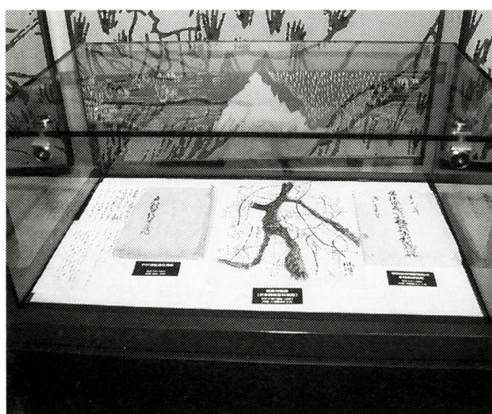
子新田は飯田村六十原の開墾によってできたものである。この新田の開発は、万治三年(一六六〇)に始まり、新田開発後、検地を受けたのが寛文三年ということになる。この古文書には新田開発に関するいろいろなことが書かれており、当時を知る貴重な資料である。

戸村は昔、佐竹氏の支配下であり、戸村摂津守が城主であった。そして檜山・高根・館の三姓は、戸村氏の家臣であり、当村内や近郷で知行を得ていた。しかし、佐竹義宣は慶長五年(一六〇〇)の上杉の乱の時、徳川家康に不審を抱かれ、慶長七年五月石高を減らされ、羽州(秋田)へ国替えになった。秋田へ連れて行くのは九三騎と決め、嫡家一人のみとした。次男、三男は連れていかないと通達され、庶流・末家は悉く暇を出され浪人になった。その数は幾千人で数え切れなかったという。前記の三姓のうち佐竹義宣に供奉したのは檜山主水・高根小六・館大

③

諸作時仕付帳 寅正月吉日
(那珂通裕氏所蔵)

和の三人だけで、八月下旬に主君と共に秋田へ引越して行き、檜山伯耆・檜山隼人・檜山主膳・檜山対馬・檜山主計・檜山和泉・山安女・高根弾正・館上総・横倉主水の一〇人が残った。この一〇人が連名で十三か条の仲間規定をつくり、農民として土着していった様子が述べられていて大変興味深い。

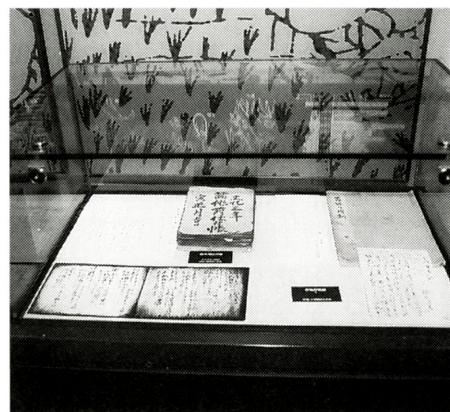


下江戸村の那珂家は、江戸時代に庄屋や河岸問屋等をつとめた。「諸作時仕付帳」は一八〇六年(文化三)のもので、秋に時付けける麦・小麦・裸麦・皮麦等の種や肥料の量や作付場所について詳細に記録され、作物として水稻・煙草・唐芋・胡麻・里芋・牛蒡・黒豆・福豆・小豆・葉豆・荳・稗・

④

百姓日用訓 鱸(鈴木)玄淳著
(大和田まさ氏所蔵)

柿、栗等を栽培しており、当時の農民の生活の一端を知ることができる。



これは手綱村(高萩市)の村医師が、一七六九年(明和六)に百姓が心掛けるべきものとして書いたのを、門弟が模写したものである。例えば百姓が先ず知っておくべきことは御公儀御法度の切支丹(キリシタン)に入らないこと。鉄砲については、獵師・狩人でも猪・鹿・熊・狼・山犬等の外、みだりに鳥獸をうつことや鉄砲を貸出したこと、人に働いて貰うときに注意することは、相手にやさしい心を持つこと。その他、農具や農作物について述べられており当時の生活を知る手がかりとなる資料である。

那珂町先住民の遺産

「那珂町先住民の遺産」体験コーナー

開催される

それぞれの土器の時代や用途を
紹介しました。

わつてみよう！」と題し、時代や製法の違う土器片を置いて実際に触ることのできるコーナーを設けました。「古代人の指に触れた思いがした。」「見た目では分らない違いが、触つてみればつきり分かった。」「今までにない企画で大変良かった。」と好評でした。ぜひ、これから毎年度ごとにも、調査した遺跡と出土品を展示して欲しいとの声も多数聞かれ、来館者の埋蔵文化財に対する関心の高さがうかがえました。

期間中の来館者は五五七名（町内二八四名、町外七三名）でした。

わが家の秘蔵品展

平成9年度に開催し好評をいただきました「わが家の秘蔵品展」を、多くのリクエストの声に応え開催しました。

11年度は、町内7地区を前期、神崎・額田・菅谷地区と後期、五台・戸多・芳野・木崎地区の2回に分け、家々に伝わる秘蔵品をお借りし展示しました。

● 11月30日開催（平成11年11月2日）
 掛軸や陶器、絵画等の美術工芸の部19点、大八車・箱形ラジオ等の懐かしい道具を展示した生活文化の部4点、水戸徳川家で使用したお椀や法螺貝・外国製の木馬等の珍品・貴品の部21

「わが家の秘蔵品展(前期)」 展示会場

点、計44点を展示しました。全て個人所蔵の普段は見ることのできない「秘蔵品」ということもあり、一点一点熱心に見入る来館者の姿が多く見受けられました。

特に、勝海舟や藤田東湖自筆の掛軸は、歴史上有名な人物の作品というところで「素晴らしい」「感動した。」といった賛辞が多数ありました。また、変わったものでは、火縄銃・法螺貝の「本物は初めて見た。」と多くの関心が集まりました。

全体的に、展示数が少なかったという指摘もありましたが、めったに見ることのできない素晴らしいものを見ることができ、後期も期待します。といった感想も多数いただきました。

期間中の人館者は一三三名(町内九〇四名・町外四三五名)でした。

●後期（平成12年2月12日）
3月12日開催）

後期は、掛軸・屏風・陶器・絵画等の美術工芸品、陶器32点、古文書・手芸品、古銭等の生活文化の部15点、菊花石・珍しい置き物・水戸藩使用の伊万里焼の茶碗等の珍品・貴品の部19点の計66点を展示することができました。

後期の目玉は、一乗院から

出展された秘仏「釈迦十六
 善神絵図」でわが家の秘蔵
 品展のために特別に公開さ
 れました。元禄年間（一六
 八八～一七〇四）に山野辺
 源太郎義昭が寄進したもの
 で、横一メートル、縦一・
 五メートルもある大きな掛
 軸を前に来館者は目を奪わ
 れていたようでした。

他にも、斉昭の印の入っ
 た古文書や、鮮やかな彩色
 の伊万里焼、郷土出身の政
 治家根本正の書や葉書等と
 いった貴重なお宝に多くの
 関心が寄せられました。

また、全体の感想として
 は「内容が充実しており、
 見応えがあった。」「昔から
 家宝として大切にし、今日
 まで残っていることは素晴
 らしい。今後ともこのような
 画に期待したい。」と言っ
 た感想が寄せられました。

期間中に入館者は六二〇
 名（町内三二七名・町外二
 七九名）でした。

前・後期を通して、来館者から企画展のPRが足りないという意見がありました。今後の反省点として留意し、より多くの方々に企画展をお楽しんでもいただくよう努めたいと思います。

最後に、わが家の秘蔵品を賜りました出品ご協力を賜りました皆様、心から御礼申し上げます。



「わが家の秘蔵品展(後期)
特別公開の「釈迦十六善神絵図」

「出展協力者氏名」

◎ 五十音順・敬称略
◎ わが家の秘蔵品展（前期）

▼美術・工芸品の部
●神崎地区・海後宗文・武

藤正夫 ● 額田地区・倉持
勇・寺門保治・渡辺明 ●

菅谷地区・片岡三九男
加藤直行・川上義和・桐

原英雄・郡司篤・高橋長
行・長沼宏平・松山正

▼生活文化の部

● 谷田地区・倉持勇・寺田
● 保治 ● 菅谷地区・川上善

▼珍品・貴品の部

● 額田地区・倉持
藤正夫 ● 寺門保台・渡辺明 ●

菅谷地区・勝山丈夫・川

秀雄・桐原英雄・軍司
み・近藤末男

▼美術・工芸品の部

●五台地区・石川勝秋・鵬
志田喜美子・萩谷よし

の・藤田政夫・山田正
山田正臣●戸多地区・秋

山はま子・阿久津多門・
小貫隆夫・小貫暎夫・斉

藤正明 ● 芳野地区・一垂院・片岡六郎・小林茂

平松俊男 ● 木崎地区・片岡洲次郎・片岡武夫・那

▼ 司厚
生活文化の部

●五台地区・植田仁・上合
信一・広瀬義範・山田正

●芳野地区・平松町
一・平松万司・細谷次男

●木崎地区・郡司厚・山崎千之

●▼珍品・貴品の部
五台地区・佐藤

清・根本喜伴
萩谷よし

の・広瀬義範
山田正●戸多

小貫実●芳野地

古田土一郎 ●

「わが特別公

目安箱(アンケート)より

(1) 展示コーナー人気ベスト3

1位 舟形石棺と映像「水鳥が語る古代のロマン」

2位 大助祭 菅谷上之町の山車

3位 農家のくらし・曲がり付き民家・長屋門

(2) 入館者の感想・意見

● 恵まれた環境の中、資料も整っており良かった。

● 町内出身なので、興味深く見学した。故郷の思いがけない発見等があり貴重な勉強になった。

● 学校で、歴史の勉強が始まったので大変役に立った。昔の道具も実物が見れて良かった。

● 資料の保管・展示方法・映像のまとめ方等素晴らしい。

● 展示品の数を増やして欲しい。

● 那珂町にも古代から続く素晴らしい

い歴史があることを知り誇りに思った。

(3) 今後の企画展の希望

● 年度毎に町内出土の埋蔵文化財の展示

● 農具の展示

● 昔の遊び・おもちゃ

● 戦中・戦後の那珂町

● 展示品に触れることのできる展示(体験コーナーのある企画展)

● 貴重なご意見・ご感想ありがとうございます。

平成11年度資料寄贈・寄託者名

— 受付順 敬称略 —

● 寄贈品及び寄託者

● 酒樽・味噌桶・採桑籠・お櫃・番傘・高下駄・カマド・鉄びん(鴻巣・細谷次男)

● 大八車・背引棒・てんびん棒・苗根切器・軽便防火ポンプ・ネコゴタツ・編み笠・蔭・うどん箸・小型食卓

(菅谷・関操) ● 茶ぼち・くぬぎ棒・たらい・手桶・麦の土入れ・味噌桶(額田北郷・富岡銀二郎) ● 七五

三着物(福田・高橋真由美) ● 石井三郎選挙関係資料(額田北郷・渡辺明) ● 第二次世界大戦時軍服・任命証他関係資料(南酒出・飯村嵩)

● 長火鉢・文書(飯田・平松万司) ● 焼酎甕(福田・笹島邦義) ● 二枚貝化石(菅谷・寺門信行) ● 洗濯板

(菅谷・中野靖興) ● 茶壺・油壺・手鏡・鞍・鞭・人形・七福神・帯・帯あげ・みかん箱・雛人形(南酒出・豊島義男) ● 婚礼時使用の島田飾り・髪飾り等(横堀・生田目つや)

● 寄託品及び寄託者

● 異形石斧(額田北郷・渡辺明)

● 自在アンカ・薬研(下江戸・小貫実)

● 寄贈・寄託者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後資料館の充実を図ってまいりますので町の歴史や民俗に関する資料等がありましたら、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成十二年度の計画

● 収蔵品展 那珂町のくらし(仮題)

● 明治昭和期に使われた生活道具を公開展示する。

● 会期 7月22日～9月3日

● 第8回特別企画展 人形展(仮題)

● 町内から募集したさまざまな人形を展示する。

● 会期 10月28日～12月3日

※只今、皆様からの出展を募集しております。

● 募集期間 6月13日～9月24日

● 募集内容 各家庭にある伝統人形・民俗人形・節句人形他

● 珍しい人形など

● 詳しくは那珂町歴史民俗資料館

(☎29710080)までお問い合わせ下さい。

《特別企画展のお知らせ》

編集後記

本日「水鳥五号」をお届けいたします。

● 昨年度は、7月～8月の夏休み期間中に、当資料館の収蔵庫に保管されて開催しました。今後とも、普段は展示していない収蔵品を皆様に見ていただけるような機会を設けたいと思います。

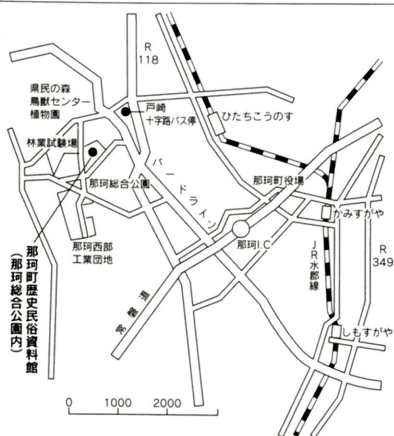
● 例年、期間的に多目的ホールへ展示していた小学校社会科学習資料「昔の道具」を常設展示室へ移動し、通年ご覧いただけるようになります。

● 小学生だけでなく、一般の来館者の方からも「懐かしい物が見られて良かった」と好評です。来館の折には是非ご覧下さい。

● 今年度も、企画展を中心に皆様に満足していただけるよう、資料館の充実を図って参りたいと思います。御意見・御要望なども受付けておりますので、出入口脇の目安箱へお寄せください。町民の皆様のご来館を心よりお待ちしております。

● 事務局

案内図



● 休館日 毎週月曜日
● 入館料 年末年始 無料

〈正誤表〉

資料館だより2頁、3頁、本文中に誤りがございます。

①正 (2頁) 牛蒡^{ごぼう} 荏^{えごま}所持 (3頁) 勝山丈夫

②誤 (2頁) 福豆^{ごぼう} 栗^{えごま}所持 (3頁) 勝山丈夫

お手数ではございますが、右記の様に訂正お願い致します。